

ニュージーランド リンゴの収量はほぼサイクロン前の水準に

FreshPlaza 2024年2月20日

ニュージーランドのリンゴの収穫が始まったところをサイクロン「ガブリエル」に襲われてから、ちょうど1年となる。4つの主要産地のうち、ホークスベイ地方とギズボーン地方の2つが被害を受け、一方、ネルソン地方とオタゴ地方では生育が良好であった。

T&Gグローバル社のガレス・エッジコムCEOは「一部の果樹園は川を流れてきた大量の水によって完全に潰され、その後には土砂が残されるか、水に浸かるかした。これはホークスベイの生産量の約35%に相当した」と述べた(以下「」は同氏の発言)。「それらの果樹園のうち少数は二度と戻ってこない。その他の園地では、土砂を取り除き、果樹を健康な状態に回復させ、復旧しなければならなかった。これら大部分の果樹園は生き残っており、それはそこで働いた偉大な人々のお陰である。この地域の収量はほぼサイクロン前の水準に戻っており、それは喜ばしいことであるが、果樹園を完全に回復させるには、まだ多くの作業が必要である。」

2023-24年度の生育期は順調で、早生品種の収穫が始まっている。エンヴィ™とジャズ™の出荷量は今シーズン増加し、それぞれ約290万箱及び160万箱と見込まれる。

復旧のコスト

販売機会の喪失とコストの発生は1年限りのものであり、同CEOによると、2030年までを見据えれば生産性の92~93%を取り戻すことができると見られる。「生産性はいくらか失われるが、それを取り戻すためにできることは何もない。今日始めたとしても、それを取り戻すには何年もかかるだろう。これは大部分の果樹園で似たような状況だと思う。しかし、我々は皆、立ち直りつつある。」

ほとんどの産業と同様に、ニュージーランドのリンゴ生産者はコストの上昇を目の当たりにしており、また多くの輸出市場では売り上げの増加に時間がかかり、コストに見合っていない。「我々はプレミアム果実とプレミアム市場に焦点を当てることで利益を引き出そうとしており、それはかなりうまくいっているようである。」

輸送の課題

過去数年間、世界中に商品を出荷するのに問題のない時期はなかったようだが、現在、輸出業者らは紅海の危機に直面しており、パナマ運河の通行可能量も減少している。これは一部の国にとっては大きな問題となるが、影響を受けない国もある。

「ヨーロッパの自給自足化が進むにつれてニュージーランドからの出荷量が減り、アジアや米国への出荷が増えている。ニュージーランドからの航路を見ると、アジアは紅海の影響を受けず、米国西海岸も同様なので、その点では極めてラッキーである。ヨーロッパへの輸送はアフリカを回り込むことを意味し、輸送時間が長くなり、費用がかかり、一般的に輸送スケジュールと機材の確保に混乱が生じやすい。弊社は、すべての輸出ネットワークを大規模にまとめることができるニュージーランドの海上貨物サービスプロバイダーであるコタヒ社と提携した。警戒はしているが、これからの輸出シーズンについてはあまり心配していない。」

将来を見据えて

「海運は良好なパートナーシップによって対応することができるが、気候変動や異常気象はますます深刻化しており、戦略を策定しておくことについて取締役会に対する責任がある。また、さまざまな規制が導入されており、それらについて報告を求められている。弊社は排出量の削減に取り組んでおり、また防雹対策などリスクを軽減する緩和戦略を弊社の果樹園に適用し、ニュージーランド国内及び世界の産地への導入を進めている。気候適応の観点からは、耐暑性品種のリンゴやナシの開発と商品化を継続する上で、温暖気候パートナーシップ(Hot Climate Partnership)は重要である。弊社は、カンタベリー地方をニュージーランドの新たなリンゴ産地として検討しており、同地方及びその他の複数の地方に強い関心を持っている。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

(記事の一部を省略しました。)